

学ぶ楽しさ

オイコノミア

🕒 24分

“お金”の正体って… 前編

小学校高学年

中学校

高校

社会

公民

商業

(2014年放送)

この番組の良さ



経済を身近に感じる番組

この番組は、日常生活の中での経済について、芸人で作家である又吉直樹さんが、コメンテーターとのやり取りを通しておもしろく、そして楽しく学んでいく番組です。

番組の随所に興味を引く仕掛けが施されており、24分という番組の長さが教材としても使いやすく、さまざまな教科で活用できます。特に、視聴者にも考えさせる場面が多数設定されており、身近なものから経済を感じ、「人々がどのように生きれば皆で一緒に幸せになれるのか？」を考えさせられます。

貴重な映像が満載

番組には、お金の製造過程など普段目にするのできない貴重な映像が満載です。「お金の正体」を探る過程からさまざまなつながりが見えてきて、思わず「なるほど!」と言いたくなります。特に番組内の「なぜ？」に対してすぐに答えを出さない構成なので、参加型の学びができる番組です。

番組活用のポイント

紙幣と貨幣の違いから学ぶ

番組は又吉さんが虫眼鏡で貨幣や紙幣をじっくりと見る場面から始まります。500円に刻まれた「日本国」と1万円札に印刷された「日本銀行券」の違いを明確にし、「お金の正体」を明らかにしていきます。

番組内で又吉さんが「なぜだろう?」、「ちょっとわかりません」と悩む場面が数か所あるので、視聴を一時停止して、答えを予想させるなどの活用が効果的です。また、普段意識せずに使っているお金がどのように作られているのか? 1円玉1枚を作るのにどのくらいのコストがかかるのか? 貨幣製造収入って? たくさんのお金を発行すると国がもうかる? 「紙幣=国債」? など、番組内での疑問を取り上げ、調べ学習やグループで話し合いをさせる場面等を設定すると、児童生徒の主体的な学びが期待できます。

教科書の言葉のイメージを拓げる

日本銀行や国債など、日常生活では利用する機会がほとんどないため、なかなかイメージしにくいのが現状です。番組では日本銀行や民間銀行、政府や印刷局について、図やモデルを使って説明します。国債の動きや税金との関連を具体的に説明しているのでとてもイメージしやすく、説明の場面で補足的に番組を活用することで「知識・理解」が深まります。

また、進んだ学習として、市場に出回るお金の量を調整し、安定した物価の実現に努める日本銀行の役割や、紙幣を発行する発券銀行としての役割、政府の資金管理の役割なども扱えます。インフレやデフレといった状況を招く背景や、経済政策について考えるなど、部分視聴によっては校種に応じた課題設定が可能なので、幅広くお金に関する学習が可能であり、興味をもって学べる教材となります。

学習展開例

対象校種：高校

授業時間 50分



大分県立
津久見高等学校
指導教諭 森 浩三

執筆

「お金の正体」から 日本銀行の役割を考える

時間配分	学習活動	教師の支援
5分	①お金について知っていることを発表する。 ・紙幣と硬貨がある。 ・国によってお金が違う。 など	○お金について知っていることを発表させる。
20分	②番組を視聴する。 ・「貨幣鑄造収入」など、気付いたことをメモしておく。 ・ペアやグループで意見交換する。 ③紙幣の正体について、考えたこと・予想したことを発表する。  <p>視聴 TV 虫眼鏡で500円硬貨と10,000円札を観察し、違いに気付く様子。</p>  <p>紙幣と硬貨の違いとは？</p>	※必要に応じてメモを取らせる。 ○13分29秒で一時停止し、「紙幣の正体」について全員に考えさせる。 ○数人に問いかけてみる。答えは出なくてよい。発言を促すヒントを出すと効果的である。 ○数人やグループで討議させるとさまざまな意見が出やすい。
25分	④番組を最後まで視聴する。 ・気付いたことをメモしておく。 ・わからない言葉等はチェックする。  <p>街頭での聞き取り調査の様子 難しい質問に首をかしげている。</p>	○「紙幣の正体」が「日本銀行の借用書」であることを踏まえ、政府と日本銀行とのつながりを考えさせる。 ○図やモデルで、紙幣や国債の流れを説明している場面については一時停止し、紙幣や国債の流れについて確認させる。
	⑤紙幣と国債の流れ、政府と日本銀行のつながりについて、視聴で気付いたことなどを参考に意見をまとめて発表する。	 <p>モデルを使用し、紙幣や国債の流れと、政府と日本銀行とのつながりを説明している。</p>

コラム

紙幣や貨幣以外のお金を考える

番組では貨幣の発行や紙幣の正体に注目していましたが、地域通貨や電子マネー、ビットコイン（仮想通貨）など、お金の代わりに使用され始めている「通貨」を取り上げ、そのしくみや既存の紙幣や貨幣とのつながりを学んでいくことで、進んだ学習として授業の幅も広がっていくでしょう。